

全戸配布

組

様

防火防災診断指導項目／対策アドバイス票 の配布

栄三丁目自治会
2022年度三役
2022年12月10日

1. 防火防災診断指導項目／対策アドバイス票の配布

本年も12月に入りかなり寒さを感じる季節になって来ております。又新型コロナウイルスの終息も未だ先が見えておりませんが、今後本格的な冬に向かい自宅及びその周辺の防火防災対策が十分に実施され、災害に強い地域作りを目指したいと思っております。今般北多摩西部消防署より入手した、本紙に添付の下記資料

● 防火防災診断指導項目

● 防火防災診断／対策のアドバイス票

を全戸配布しますので、各家庭内で診断票に示す29項目の、

- 火災関連 ; 14項目
- 地震項目 ; 7項目
- その他事故 ; 8項目

の内容を確認して戴き、必要に応じ「対策アドバイス」を参考に
してご家庭内の対策を行って下さい。

本資料は防災会員のご家庭にも配布致しますので、内容をご
確認し、必要に応じてご対応をお願い致します。

以上

防火防災診断指導項目

- 1 住宅火災で亡くなった方のうち、65歳以上の高齢者の割合は7割にのぼります。主な火災原因は次の4つです。

たばこ

- 布団やベッドの上では絶対に吸わないでください。
- 火種を落とさないように安全な場所で喫煙してください。
- 吸殻を灰皿にためないでください。
- 吸殻は水で完全に消してから捨ててください。

ストーブ

- 周りに燃えやすい物を置かないようにしてください。
- ストーブの上で洗濯物を干したり、近くで乾かしたりしないでください。
- 石油（灯油）ストーブの給油は、必ず火を消してからにしてください。
- 外出時、就寝時は必ず消してください。

コンロ

- 使用中は離れない。離れるときは必ず火を消してください。
- 周りに燃えやすい物を置かないようにしてください。
- 使用中のコンロには袖口等が炎に触れないよう注意し、防災製品のエプロンやアームカバーを使用するようにしてください。
- コンロの火がなべ底からはみ出さないように火力に注意してください。
- 安全機能（Siセンサー）付きコンロを使用してください。

電気

- タップは決められた容量内で使用してください。
- 長期間差したままのプラグは定期的を外し、乾いた布等で掃除してください。
- コードは家具などの下敷きになったり、折れ曲がらないようにしてください。

- 2 各地で放火とみられる火災が相次いでいます。地震への備えも含めてご家族で「火の用心」の確認をしてください。

放火火災

- 家の周りには燃えやすいものを置かないようにしてください。
- ごみは収集日の朝に出すようにしてください。

住まいの防火防災対策

- 防災訓練への参加をお願いします。
- 地震に備えてタンスや食器棚等の転倒防止措置をしてください。

防火防災診断 結果のお知らせ

防火防災はとても大切です。今すぐ対策を！

「対策のアドバイス」を参考に改善しましょう

診断を受けても火事や災害が起きないとは言いきれません。これからも注意しましょう

火災



- よく備えています
- 対策をとりましょう

火災をおこさないために

- たばこ**

 - 1 寝たばこはやめましょう
 - 1 灰皿に吸いがらをためないようにしましょう
- ストーブ**

 - 2 洗濯物など燃えやすい物を近くに置かないようにしましょう
 - 2 ストーブは説明書をよく読んで正しく使いましょう
- こんろ**

 - 3 こんろのまわりは、いつもきれいにしておきましょう
- 家電製品**

 - 4 古くなり、不良個所のある家電製品を使うのはやめましょう
- コンセント**

 - 5 コンセントはこまめに掃除しましょう
- 電気配線**

 - 6 コンセントに負荷がかかりすぎないように
タコ足配線はやめましょう
- 仏壇など**

 - 7 ろうそく・線香をつけたまま
その場を離れないようにしましょう
- 防災品**

 - 9 カーテン・シーツなどは防災品を使いましょう
- 住警器**

 - 13 住宅用火災警報器を設置しましょう
- 家の外**

 - 8 家のまわりは整理整頓しておきましょう



もし火災がおこったら

- 11 無理に初期消火をしようとせず、火が天井に回る前に避難しましょう
- 12 すぐに隣近所に知らせて、119番通報をしましょう

診断日	平成	年	月	日	様
東京消防庁			消防署	担当：	

地震



<input type="checkbox"/>	よく備えています
<input type="checkbox"/>	対策をとりましょう

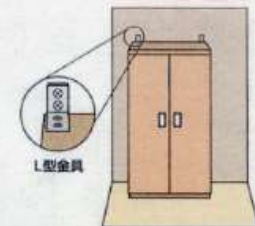
地震にそなえて

15 寝る場所の近くに家具を置かないようにしましょう
(寝ている場所に倒れてこないように、位置・向きを変えましょう)

15 家具類の転倒・落下・移動防止をしましょう

21 非常持ち出し品を準備しましょう
(3日分の医薬品、飲料水、食料など)

27 手助けをお願いできる人を確保しましょう



もし地震がおきたら

18 地震だ！ まず身の安全
(揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動しましょう)

19 けが等を防ぐために、スリッパ・軍手・笛などを備えましょう

20 一時集合場所、避難所まで歩いて行き、確認してみましょう

その他の事故



<input type="checkbox"/>	よく備えています
<input type="checkbox"/>	対策をとりましょう

転倒やつまづきに注意

23 すべりやすい敷物ははかないようにしましょう

入浴中の事故に注意

24 体調の悪い時や飲酒した後の入浴は避けましょう

24 入浴の前には水分補給をしましょう



熱中症に注意

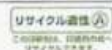
25 冷房や冷却グッズをつかきましょう

25 夏場はこまめに水分をとりましょう

一酸化炭素中毒事故に注意

26 ストーブなどを使用するときは、じゅうぶん換気しましょう

→ うら面の対策のアドバイスもご確認ください。



対策のアドバイス

火災編 (かさいへん)

◎ 防災品を使いましょう

方が一、火が衣服に接しても、燃え広がりにくい素材で作られている**防災品**の寝具類（シーツ、枕カバー、布団カバー）、エプロン、割烹着、アームカバーなどを使用しましょう。



写真左：防災品の割烹着

写真右：通常の割烹着

防災品は、火が接しても普通の製品に比べて、火がつきにくく、燃えにくい製品です。調理の際などに使用すると安心です。

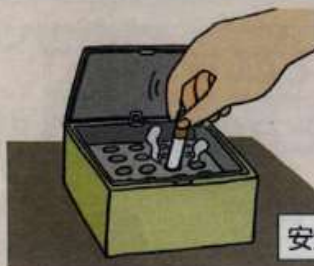
防災品に関する問合せや、販売店などに関する問合せは…
(問合せ先) 公益財団法人 日本防災協会

電話：03-3246-1661

FAX：03-3271-1692

URL：<http://www.jfra.or.jp/>

◎ たばこ火災対策のヒント



安全な灰皿の例

吸いながら外に落ちることを防ぐものや、吸いながらの炎が自然に消えるなどの機能を備えた灰皿が市販されています。

たばこ火災に備えて、大きめの灰皿に水を入れて使う、吸いながらはこまめに清掃するほか、このような機能を備えた灰皿を使うとより安心です。

ホームセンター等で購入できます。

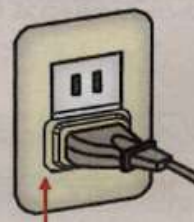
◎ 電気火災対策のヒント



許容電流の表示例

テーブルタップを使用する際には必ず許容電流を確認しましょう。

使用できる電流量はテーブルタップに記載されているので、それを超えない範囲で安全に使用しましょう。



コンセントカバー

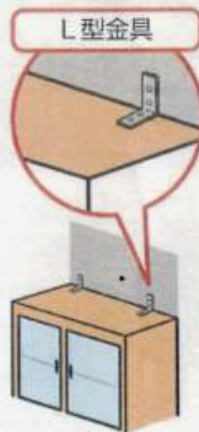
コンセントにほこりが溜まるのを防ぐカバーなどが市販されています。

100円ショップやホームセンター等で購入できます。

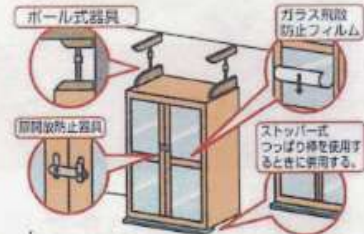
地震編 (じしんへん)

◎ 家具類の転倒・落下・移動防止対策をしましょう

家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒や落下の防止措置をしておきましょう。また、就寝中の地震発生に備えて寝室の家具は、優先的に転倒防止対策を実施しましょう。重いものは、下に収納することで家具の重心が低くなり転倒しにくくなります。



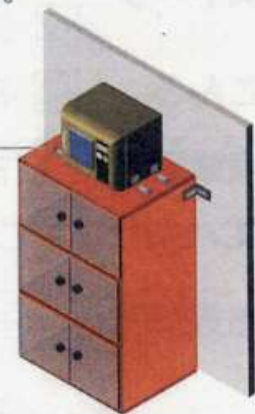
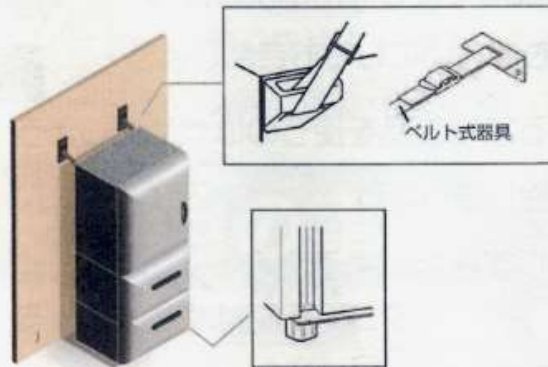
※壁に穴が開けられないなど、やむを得ずL型金具を使用できない場合は、**ボール式(つっぱり棒)**と**トッパー式**の器具を併せて使用しましょう。



脚の部分のロックを行うとともに、冷蔵庫の上部をベルトなどで背面の壁と連結することが有効ですが、壁側にネジ止めをする器具の場合は、壁の強度のある部分で行う必要があります。



テレビや電子レンジも固定が必要です。粘着マットを使用した固定が手軽で便利です。ホームセンターや家電量販店等で購入できます。



その他

いざというときに備えて、自分の氏名、住所、緊急連絡先、既往症、かかりつけ病院、普段飲んでいる薬などの情報を事前にまとめておくと安心です。

※急な病気やけがをした場合に、病院へ行くべきか？救急車を呼ぶべきか？迷ったら東京消防庁救急相談センター(#7119)に電話で相談できます。

病院？救急車？迷ったら
電話でのご相談の場合は…

東京消防庁救急相談センター
[24時間受付・年中無休] -フッシュ0119 救急電話 PHSから-

#7119

つながらない場合は… **23区 03-3212-2323**
多摩地区 042-521-2323

防火防災診断の「結果のお知らせ」と、この対策のアドバイスを参考にしてこれからも災害に強い安心・安全な生活を送れるよう心がけましょう。